

第4回 高1英語

総評

今回の試験では、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式を出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力がどの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。今回は特に大問4の英文が長く、小説ということもあり、読み慣れていない人は時間配分に苦労しただろう。制限時間に対する演習量が多く、厳しい内容になってはいるが、プレステージを受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力・得点力が伸びるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

長い英文の聴き取りに慣れていない人は、メモを取るタイミングに苦戦しただろう。放送前に設問に少しでも目を通し、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

英問英答形式の設問で選択肢がやや長いものもあるため、聴き取る力以外に速読力も求められる出題となった。人物名がいくつか出てくるので、誰の考え・行動なのかを正確に把握する必要があった。

(2) 数字に関する問題で、センター試験と同じく、聴き取りだけでなく計算を要するものとした。月日の正しい理解も必要なので、情報の整理に時間をとられた人が多かったようだ。

問題B

「集中力」に関する説明文。concentration という単語がいたるところに出てくるのでテーマはつか

みやすかったと思うが、設問のレベルは高めに設定したので、満点は取りづらかっただろう。

Part 1

(1), (2) は特に、選択肢が複雑で、一読するとどれも正しいことを言っているように見えるため、吟味に時間がかかってしまったか。

Part 2

ディクテーション問題。スペリングミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、文法には自信がある人もここで間違えていた場合は見直しが必要である。また、既知の単語でも、音声ではうまく聞き取れないものについては音読の練習もすること。

(1) if you *will* relax とした誤答もあったが、条件を表す副詞節なので、will は使えない。feel relaxed が正しいが、SVC の C にあたる relaxed を relax という原形にしてしまい、過去分詞形の語尾の -ed の [t] の音を聞き逃した人が多かった。

(2) この設問も品詞にまで意識を向けられたかがポイントの1つだった。make a までは書けていても、difference を書けた人はごく一部であった。different とした誤答が大半だが、動詞の目的語であり、直前に冠詞 a があることから、続くのは形容詞ではなく名詞であることに気づいてほしかった。

2 文法・語法

基本的な問題を中心に、用法の詳細な理解が求められる出題とした。時制、不定詞、使役動詞、関係詞、否定、間接疑問など広範囲の文法事項に加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

スペリングミスを含め1語でも間違えているものは配点分減点とした。英作文の基本である、「主語を決定する力」を確認することを最大の目的とした。

(1) あえて文法書に出てくる例文のような文にしたので、全員に正解してもらいたかった1問。ここ

で間違えた人は、文法事項の見直しをする際に、「結果」を表す to 不定詞」とだけ覚えるのではなく、例文ごと覚えよう。

(2) take care という組み合わせは作れたが、先頭にくる saying が、直前の mother ではなく letter を修飾するという点が見抜きにくかったか。

(3) made me nervous から、主語が thought になることに気づけたかがポイント。mere の意味を知らなくて、これが主語だと勘違いした人もいるかもしれないが、日本語をきちんと読めば、「私」を主語にできない以上、「人前で話すと考えること(だけ)」を主語にする必要があると理解できたはず。

(4) 'have no choice but to +動詞の原形' と '付帯状況' を表す with の両方の知識を問う問題。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文のつながりを考えて書くことが条件。採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。特に内容面は例年より厳しく採点したため、得点が残らない人が多かった。

(1) 空所直後の I am. Anything wrong? という返答に自然につながる内容で、かつ、イラストの状況(この会話の話題の中心となっている、エネルギーの無駄遣いに直結するもの)を答える問題。条件の多い設問のため、イラストからわかる状況であっても、「水を出しっぱなしにして無駄にしていること」に言及できていないものは(-8)とした。

(2) 内容面でのポイントは2つ。① エネルギー節約の方法として説得力があること、② 具体的なかつ身近な取り組みであること。それぞれ抜けていたら(-5)とし、内容面で減点した後に、文法・語彙の誤りを各(-1)とした。「イラストの内容とは無関係の内容」という指示により、(1)とは異なる語彙・構文の表現力を試す出題とした。このため、歯磨きの際の水の利用に限らず、water に関わる内容を書いたものは一律減点しており、今回の模試全体を通して最も厳しい1問となった。英作文では、スペリングミスや文法面でのケアレスミスをしないうように、書き終えたら必ず見直そう。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

(1) ○そんな場所での清掃は危険だからやめるよ

- う ……4点
- 何度言っても ……2点
- まったく聞き入れません ……2点
- (2) ○このような善意のおかげで ……3点
- 私たちが気持ちよく暮らせている ……2点
- ことを決して忘れないようにしたいと思います ……3点

4 長文読解

タクシー運転手との口論を、幼い息子が収めてしまう場面をユーモラスに描いた物語の一部。細かい描写を含む状況や、登場人物の心の動きを理解できているかを問うた。

(1) 和訳問題。couldn't have cared less を「…できなかった」と誤訳した解答が散見された。父親の様子との対比・話の展開から、息子の様子をイメージして、知らない表現が出てきた時に意味を推測できるようにしてほしい。

5 長文読解

「情報化社会において、情報とは理解しやすいものに変換できて初めて役に立つ」という主張を述べた論説文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

- They の指す内容 ……3点
- transform what life throws at them, ……4点
- rather than just taking it as it comes ……3点

構文はさほど複雑ではなく、使われている語彙も難しいものはないが、抽象的な内容であるために適切な訳語の選択ができていないものが多かった。

(3) 含めるべきポイントはそれぞれ2つ。① the hand writers ... as the typists (4点) / scored twice as well (5点)、② took away their notes as soon as it (= the lecture) was over (5点) / so students couldn't study on their own (4点) ②は盛り込むべきポイントが他にもあるように思えるが、制限字数内で必要なポイントのみを抽出してまとめることができるかどうかで差がついた。

(4) 「書物に関して」という条件があることに注意したい。explain the concepts to someone の部分を的確に答えればよい。force yourself to put it down を「(書物を)置く」ではなく「書き留める」などと誤訳したものは(-1)とした。

第4回 高1数学

総評

今回は、必答問題を「数と式」「2次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本問題はできていたが、応用問題になると手がつかない人が多かった。また、考え方はわかっているが計算ミスをしているもの、ほぼ正答の答案でも、遠回りの解法をとっているもの、論証に不備があるものも少なくなかった。正確な計算をすること、式の説明や考えた過程で必要な記述をしっかりと書くようにしよう。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

(1) **A**はできていたが、**I**での誤りが目立った。小数部分の求め方を確認しておこう。

(2) **E**, **オ**は想定していたほどできていなかった。絶対値の扱い方についてしっかりと復習しておこう。

(3) **キ**は比較的にできていたが、**力**の出来は想定よりも低かった。確率を求めている答案もあった。問題文はしっかりと読むようにしよう。

(4) **ケ**, **コ**ともに出来はよくなかった。数直線などを用いて考えられるようにしたい。

2 2次関数

平行移動した放物線についての問題。

(1) できていた。考え方は正しいと思われるが、右辺だけ書いたものや「 $C_1=$ 」とした答も目立った。

(2) (1)が正しいものは概ねできていた。計算間違いをした人は丁寧に計算することを心がけよう。

(3) 最大値だけが正しいものや最大となるときの a の値だけが正しいものも見られた。絶対値の絡んだ問題では、グラフを正しくかいて考察することが好ましい。絶対値の中が正しいのに、答を間違えてしまった人はこの点を意識するようにしよう。

3 場合の数と確率

基本的な内容をいろいろ含んだ確率の問題。

(1) できていた。

(2) 題意をみただけのどのような事象のときは理解できているようだったが、余事象を利用せずに計算を進めたものや、1回ごとの試行が独立であることがわかっていないと思われるものも目立った。

(3) (2)同様、問題の条件からどのような場合かはわかっているようであったが、それぞれの場合の確率を求めることまでできている答案は少なかった。

4 図形と計量

三角比の基本的な内容と四面体の体積の問題。

(1) できていた。

(2) 角の二等分線と辺の比の関係を用いて三角形の面積比を計算したものが多かった。しかし、計算ミスが目立った。丁寧な計算を心がけよう。

(3) こちらも計算ミスが多かった。解法はいろいろあるので、自分の解法と異なる解法を研究してみるのもよいだろう。

(4) 自分で設定した底面に対する高さを正しく把握できていないものが多かった。どこを底面とするかもポイントである。前の設問を利用するにはどうすればよいのかを考えよう。

5 整数の性質

不定方程式の問題。

(1) できていたが、 a と b の大小関係を間違えたものも少なくなかった。

(2) 偶奇に着目して考えられている答案は多かったが、ごまかした答案もいくつか見られた。証明問題では正しい内容を丁寧に書くように心がけよう。

(3) 解答のように絞り込みを利用した答案は少なく、すべてのパターンを書き出そうとして、漏れや間違いのある答案が多かった。整数問題では絞り込みを利用することを意識したい。それによって計算ミスや漏れを減らすことができる。

(4) (3)の形に変形することがポイントであったが、できている答案は少なかった。

6 図形と方程式

軌跡と領域に関する問題。

(1) できていたが、計算ミスが目立った。

(2) 交点を具体的に求め、そこから計算を進めているものも少なくなかった。この方法では途中で計算ミスをする可能性が高い。計算が煩雑になりそうなときは、ほかに方法がないかを考えてみるとよい。

また、東の考え方をういたもので、正しい使い方をしていないことによる誤答も目立った。

(3) 考え方は正しいものの、計算ミスによる間違いや定義域の見落としが目立った。

(4) 出来は悪かった。解答解説などを利用してもう一度解き直してほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50点) いずれも答に

- (1) **ア**:5点, **イ**:5点, **ウ**:5点
- (2) **エ**:5点, **オ**:5点
- (3) **カ**:5点, **キ**:5点, **ク**:5点
- (4) **ケ**:5点, **コ**:5点

2 (50点)

- (1) (10点)
 - 平方完成して2点
 - 平行移動して4点
 - 答に4点
- (2) (15点)
 - 交点の x 座標を求める式に5点
 - 交点の x 座標を求めて2点
 - 答に8点
- (3) (25点)
 - 最大値を求める絶対値のついた式に15点
 - グラフで考察して4点
 - 答に6点

3 (50点)

- (1) (10点)
 - 答に10点
- (2) (15点)
 - 確率を求める式に10点
 - 答に5点
- (3) (25点)
 - 同点になる3つの場合の確率に17点
 - 確率を求める式に5点
 - 答に3点

4 (50点)

- (1) (10点)
 - 答に10点
- (2) (10点)
 - $\triangle ABC$ の面積を求めて4点
 - 答に6点
- (3) (10点)
 - AD の長さを求める式に6点
 - 答に4点
- (4) (20点)
 - 四面体 $ABCD$ の高さを求めて12点
 - 答に8点

5 (50点)

- (1) (10点)
 - 答に10点
- (2) (10点)
 - 与式を因数分解して2点
 - (1)の結果を利用して、結論に8点
- (3) (10点)
 - $p+q$ と $p-q$ の組を求めて5点
 - 答に5点
- (4) (20点)
 - (3)を利用できる形にして12点
 - $2x+3$ と $2y-1$ の組を求めて4点
 - 答に4点

6 (50点)

- (1) (10点)
 - x の2次方程式をつくって2点
 - 判別式を求めて2点
 - 答に6点
- (2) (10点)
 - 傾きを求める式に5点
 - 答に5点
- (3) (15点)
 - 軌跡の方程式を求めて9点
 - 定義域を求めて3点
 - 答に3点
- (4) (15点)
 - 領域の形状を捉えて6点
 - 境界や除外点、主要点が正しくて9点

第四回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「犠牲」の「牲」を誤るものが目立った。

(二) 「採点基準」

「a 唐突に悲惨な死を遂げた人が b 死者として存在するかのように考えること、c その人との関係の喪失に耐える(行為)」と説明して

* a 3点、b 3点、c 4点。

傍線部直後の具体例から、ここでの「亡くなった人」が自然な亡くなり方をしたわけではないことを押さえない。だからこそ、遺族はよりこのような行

為へと導かれるのである。「死者として存在するかのように考える」にとどまる答案も多かったが、そのような行為の意味にまで踏み込む必要がある。

(三) これはよく出来ていた。

(四) (ウ)では「湯灌に代わるもの」の意が表せない。また(オ)の「旧弊」には悪いものというニュアンスがあるが、筆者が「湯灌」を悪いものとしてとらえているとは読み取れない。

(五) 「採点基準」

「a 死体は b 死んだ状態の単なる物体という意味だが、c 遺体は d 生前の人格が想定されており、e その人が特別の関係にあった人びとに対し、処理を期待して残した身体という意味である。」と説明して

* a 1点、b 5点、c 1点、d 4点、e 5点。

全体的外れという答案は少なかった。いかに重複しないように要素をピックアップして答案にまとめあげるか、というところで差がついたようだ。

(六) 問題文のテーマが日本人の「死の文化」なので、実質的に問題文全体を対象とする内容合致問題である。選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答としては(オ)が目立った。解説をよく読んで復習しておく。

二 小説

(一) (イ)という誤答が目立った。方向として間違っているわけではないが、相対的に正答よりは劣る、という選択肢である。こういった、明らかな誤りはない複数の選択肢の中から最適なものを選ぶ、という場合もあるので注意しよう。

(二) 誤答では(ウ)が目立つ。

(三) これはよく出来ていた。

(四) 「採点基準」

「a 長く生きられなくても、b 生きた証として誰かの心の中にそっと存在を残すことができれば満足だ」ということ。」と説明して

* a 4点、b 8点。

生きた証を残したい、というところは、多くの人が押さえられていた。

(五) 「採点基準」

「a 両親の子として生まれた奇跡に感謝しており、b 両親を大切に思っているということ、c 健一に伝えたかったから。」と説明して

* a 6点、b 4点、c 2点。

解答の大枠は「何かを健一に伝えたかったから」となるが、その伝えたかった「何か」だけに答案内容を絞ってしまい、それを健一に伝えたかったとまでは言っていないものが多かった。

(六) (エ)という誤答が散見されたが、「絶望」の前提

となるべき「生きたい」という意欲が英樹の言動には見られないことに注意しよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せたかどうか、振り返っておいてほしい。

(二) (y) 「げに」の誤りが目立った。語義を知らず文脈だけから選んだ結果が(エ)「先だって」だろう。

(三) [採点基準]

「私が以前に窮楽に頼んでいた書を b あなたが持つて来なさるならば、c あなたが窮楽の子どもである証拠としよう」と訳して

* a 3点、b 2点、c 3点。

「これ」とは何か、「携へ」るのは誰か、何の「証」となるのかを説明したうえで口語訳する。説明に意識が行ってしまったせい、「給ふ」や「べし」の訳がおろそかになってしまったのが目立つ。

(四) 傍線部の「心を隔て」という表現に引きずられてしまったせい、「ウ」という誤答が目立った。

(五) [採点基準]

「a 下血で汚れた b 父の寢床を c きれいにするの」を d 汚らしい(と思うこと)と説明して

——6点

* a 2点、b 2点、c 1点、d 1点。

「汝もまた同じとはいへど」まで反映させようと

すると、字数が足りなくなる。ポイントを絞り込んで解答を作成しよう。

(六) A [採点基準]

「a 父への b 世話や病気の看病の様子」と説明して

* a 1点、b 4点。

B [採点基準]

「a 久兵衛の父への b 親孝行ぶり全体」と説明して

* a 2点、b 3点。

「これら」に第一段落の内容も含まれると解釈してしまったものが多かった。

(七) 誤答は割れている。正しく読めた人が少なかったことの表れだろう。

(四) 漢文

(一) 思ったより出来が悪かった。いずれもよく問われるものである。間違えた人は、この機会に覚えておこう。

(二) [採点基準]

「a 公乗不仁をして b 賜政たら(を為さ) c しむ」と書き下して

* a 2点、b 3点、c 1点。

「為」は動詞・助動詞いずれの読みも可とした。

(三) [採点基準]

「a 文侯は b 飲んだけれども c 盃一杯全部は d 飲み干さなかった」と訳して

* a 1点、b 2点、c 2点、d 1点

「文侯は飲んで飲み干さなかった」という答案があった。「尽」以外のわかるところを訳そう、ということだろうが、「飲んで飲み干さなかった」は日本語としてつながりが悪いことに気づきたい。

(四) (i) (イ)という誤答が目立った。逆に言えばどうなるか、ということ、傍線部に続く部分もあわせて考える。

(ii) [採点基準]

「a 自分でルールを決め、b 家臣たちが問題なく受けている罰杯は c 文侯も受けるべきだ」と説明して

* a 2点、b 5点、c 3点。

これは難しかったようで、方向違いの答案が多々見られた。

(五) 誤答では(ウ)が目立ったが、君主が臣下に対して「承」ることはない。